

2009 年 花王教員フェローシップ
海外野外調査体験プログラム

アメリカ アリゾナ州
森のイモムシ

プロジェクト実施期間 8 月 5 日～8 月 14 日



姫路市立前之庄小学校 藪元 佐和子

レポート提出から合格発表まで

昨年の 2 月、たまたま職員室で目に留まった「花王教員フェローシップ募集」のパンフレット。「現場の教員に環境プロジェクトに参加してもらい、それを現場に還元する」という趣旨に大いに賛同し、早速申し込んだ。以前「JICA 教師海外研修」に参加し、教師が現地で実際に経験したことを、子どもたちに教えることの大切さを痛感していたからだ。しかし、この年は残念ながら落選してしまった。

そして今年。ダメでもともと、もう一度チャレンジしてみようとレポートを出す。すると、5 月の終わりに「補欠合格」の通知をいただいた。もしキャンセルがあれば 5 月中に連絡がある。毎日ポストを覗く日々が続いたが、結局届かず「また来年」とあきらめていた。

忘れかけていた 6 月半ば、突然職場にアズウオッチから電話がかかってきたという連絡。ドキドキしながらかけ直すと、「1 件キャンセルがあったのですがどうされますか。」とのこと。イモムシが苦手な私は一瞬ひるんだが、「はい、行きます！！」と即答した。

まず管理職に話し、そして同僚に。快く了解していただき、ありがたかった。

出発までの準備

決定がかなり遅かったので、準備は急ピッチで進めていった。電話があったのが金曜日で、その週末にその時点でできる書類は全部完成させた。英文で書くところは、英語教師だった父に随分助けてもらった。父がいなければこんなに早く完成できなかっただろう。とても感謝している。

あとはかかりつけの医師にサインしていただくのと、行き帰りの航空機をおさえること。航空券はお盆が重なっているため難航したが、何とかプロジェクト開始1日前に到着・最終日の早朝に出発の便が取れた。

準備物は、アースウォッチ・ジャパンから今までの持ち物一覧を送っていただいたので、それを参考にさせていただいた。また、昨年度同じプログラムに参加された清水さんともメールで連絡を取り合い、向こうで必要なものや、リー先生やメンバーへのおみやげを揃えていった。出発直前に今回のプロジェクトのブリーフィングが届いた。全部英語だったので、読破は無理と諦め、必要と思われるところだけ読んだ。破傷風の予防接種を夏休みに入ってから受けに行ったら「破傷風は2回接種するとよい。もう少し早く来ていればよかったね。」と言われた。今後参加される方には早めの接種をお薦めする。実際に参加してみて、帽子とサングラスは必携だった。アリゾナの日差しは半端ではない。怪我や虫さされを心配していたが、思ったよりハードではなく、虫除けスプレーは結局使わなかった。おみやげは100均で品の良い扇子を見つけたのでそれを13本買って持って行った。やはり日本的なものが喜ばれるようだ。

あとは英語とイモムシ。これは最後の最後まで不安要素だった。昨年度の方のレポートに載っている、煌びやかな虫たち。私は果たして彼らを受け入れることができるのだろうか・・・。

いよいよ出発、そしてメンバーとの出逢い

ロス経由でツーソンへ。ツーソン行きの便が大幅に遅れたため、着いたのは夜の10時頃。次の日から泊まる、空港に近いホテルと同じ所を予約していてよかった。それでも行き方が分からなくて困っていると、一緒の飛行機に乗っていた人が車に乗せてくださった。長旅で疲れていたのもとてもありがたかった。

次の日は集合時間までフリーだったので、「オールドツーソンスタジオ」というところにタクシーで行った。西部劇の撮影にも使われるところらしいが、とにかく暑くて1時間くらいで帰ってきた。

夕方になると、ロビーに続々とメンバーが到着した。今回のメンバーは10名。ほとんどが学校関係者だった。日本からの参加の小林さんとも初顔合わせだった。

みんなでメキシコ料理を食べに行く。途中すごい雷で、お店の中が一時停電になった。アリゾナに来た、という感じがした。



↑オールドツーソンスタジオ

ホテルに帰ってから、リー先生よりプロジェクトの説明があった。英語はほとんど分からなかったが、事前にアースウォッチ・ジャパンよりプロジェクトの概要を書いたものをいただいていたので助かった。

プロジェクトの開始

1日目(8月6日)砂漠博物館見学と

イモムシ捕りの練習

午前中ホテルを出発し、車で30分ほどの「砂漠博物館」に行った。たくさんのサボテンやそこに住む動物たちを見ることができた。ここでは5時間ほどのフリータイム。私はあまりの暑さに最後はお土産屋さんに避難したが、一緒にまわっていたメンバーはタフで、最後まで積極的に見学していた。

ホテルに帰る途中、イモムシを捕った。2~3人でペアになり、棒で叩く人・下で受ける人に分かれた。1つのグループが同じ木だけで探す。私たちはアカシアの木担当だった。捕ったイモムシは同じ袋に入れて木の名前と虫の数を書き込み、保冷袋の中へ入れた。

ホテルに帰ってから、リー先生から今までの研究についての説明があった。色々なグラフが出てきた。分からないところは、後から小林さんに教えていただいた。



↑ 砂漠博物館



↑ イモムシ捕りの様子

2日目(8月7日) SWRS (South West Research Center) へ出発!!

いよいよSWRSに向けて出発。途中昨日と同じようにイモムシを採集しながら車で3時間ほどのドライブだった。



↑ リス

まずは宿泊場所に到着。去年はSWRSの中の宿泊施設に泊まったそうだが、今年は満室で、少し離れたCAVE CREEK RANCHに泊まることになった。そこがまた素敵ところで、毎朝管理人さんが庭に色々な餌を準備しているので、ハチドリやリス、鹿などたくさんの動物を間近で見ることができた。



↑ ハチドリ

3日目(8月8日)~7日目(8月12日) SWRSでの活動

☆ イモムシ捕り

→ キャタピラールーム

SWRSから車に乗って行った。やり方は今までと同じであるが、捕ってきた虫は施設内の部屋(私は「キャタピラールーム」



と呼んでいた)に順番に吊しておいた。

☆ 植物の調査

高い山まで行き、ある一定区間の植物の葉の数を数える作業をした。ロープを四方に張り、4人で手分けしてそれぞれの場所の葉の数を数え、リー先生に報告した。リー先生はGPSを使っていた。



葉を数えるメンバー →

☆ イモムシの世話

これが今回一番のお気に入りの仕事で、後半私はこの仕事専属になった。

作業内容は、①イモムシと餌を袋から出し、イモムシの数を数える。②サナギになっているものや寄生されたものは、紙に書き出し別の袋に入れる。③イモムシと餌を袋に戻す。④餌を取ってきて袋に入れる。

糞がくさくて大変だし、イモムシにギャーギャー騒ぎながらの作業だったが、毎日少しずつ大きくなっていくイモムシを見るのはとても楽しかった。最終日にはたくさんのイモムシがサナギになっていた。いよいよ最後の時には「少しの間お世話する人がいないのでくさん餌を入れておこう。」とメンバーで手分けして餌を取ってきてたくさん入れてやった。行く前はあんなにイモムシが苦手だったのに、いつの間にか愛着を持っている自分がいた。



↑ 葉に付いた
糞を取り除くた

☆ レクチャー

夕食後に2回、今までの調査についてのレクチャーがあった。レクチャーしてくださったのは、デフさんとティムさんだ。これまた難しかったが、デフさんの方はたくさんの写真があったのでその部分は理解できた。虫の擬態や補色について色々知ることができた。



↑ デフさんのレクチャー

☆ その他の仕事

自分は携わっていないのだが、以下に他のメンバーがしていた仕事も紹介したいと思う。

- ・ イモムシの撮影ー捕ってきたイモムシを1匹ずつ撮影し、パソコンに保存する。この仕事はジョンの担当だった。私と小林さんは、たくさんの写真からいいものだけを残す選別の仕事を手伝わせてもらった。
- ・ サナギに薬品を埋めるーサナギの中に小さな玉を埋め1日おいた後、それが変色しているかどうかで、寄生されたサナギの免疫機能 → 薬品を埋める様子



が犯されているかどうか分かるらしい。

☆☆ SWRS での生活について

食事は3食すべてSWRSの食堂で食べた。毎回色々なメニューが出て、飽きることがなかった。しかし、1つ気になったことは皿・スプーン・フォーク・カップがすべて使い捨てだということだ。日本でもマイカップ・マイ箸を持ち歩いている私にとって、毎回食器を捨てることに抵抗があった。2日目からはマイ水筒・マイ箸を使った。アメリカの人たちに「日本人は起用だね。」と写真を撮られたり、ゼリーをお箸で食べていたら「amazing!!」



↑ 食堂の様子

とびっくりされたりした。学校でエコクラブの指導をしているカレンに「エコに関心のある日本人は、マイ箸やマイカップを使っている。」と話すと「とてもいいことだね。」と褒めてくれた。また、「今は『リサイクル』よりも『リユース』『リシンク』が大事。」という話をしてくれた。「リシンク」というのは、買うときに「これは本当に必要なものだろうか。」と考えてから買うことだそうだ。

敷地が広いので、昼休みは昼寝をしたりプールに入ったり芝生で遊んだり、いろいろな過ごし方ができた。リー先生・アンジェラ・ジャレッド・小林さんたちとサッカーをした時もあった。2回ほど午後からフリーの日があったので、ハイキングに行ったり一番近いお店（と言っても1マイルくらい離れている）に歩いて買い物に行ったりした。



↑ 昼休みの様子

8日目(8月13日) SWRSを出発～ホテルへ

いよいよプロジェクト最後の日。この日は私の誕生日で、朝からみんなお祝いしてくれた。虫たちに最後のお別れをして車に乗る。心地よい疲れの中で、アリゾナの景色を目に焼き付けながらの帰り道だった。

夜はみんなでメキシコ料理の店に行った。途中で誕生日ケーキが出てきた。サプライズパーティ・・・みんなの気持ちが嬉しかった。最後に小林さんと二人でメンバー全員に名刺を渡す。とても喜んでくれた。いよいよお別れだ。

いよいよ帰国の日

あと1日滞在する小林さんが、私の早い出発に付き合ってくださいました。最後の朝食と一緒に食べる。ジョンもちょうど朝食に来ていたので最後のあいさつをし、空港へ。小林さんが空港まで見送りに来てくださった。

この後、空港ではお店に忘れた上着を店員さんが持ってきてくださったり、この度は本当にたくさんの人たちの温かさに触れた。

子どもたちに思いを伝える

帰国してから2週間後、5, 6年生の子どもたちに自分の体験を話すことになった。

今回の体験を通して、私が強く感じたのは命の素晴らしさである。今まで私はこの世界は人間が中心だと思っていた。しかし、1週間自然の中で暮らしてみて、人間もこの世界に生きる生物の1つに過ぎないことを強く感じた。また、行くまではイモムシが苦手だったが、毎日の世話をしていくにつれて、その一生懸命生きている様に感動し、いとおしく思えてきた。

これらのことを子どもたちにも伝えたくて、アリゾナの自然やイモムシの写真をたくさん紹介することにした。特に今回はイモムシの調査が目的だったので、毒を持つもの・保護色をしているもの・葉を丸めてその中にいるものなど、色々な種類の写真を用意した。

もう一つは、自分が国際理解担当ということもあり、アメリカの文化についても撮ってきた写真を交えて伝えることにした。

- * アメリカ合衆国・アリゾナ州について
- * 自分たちが採集したイモムシについて
- * アメリカの文化について

以下は子どもたちの感想の一部である。

- ・自分の体を守るために、あんな小さな虫も頭を使っているのはすごいと思った。
- ・イモムシが葉っぱを巻いて家を作っているのはすごいと思いました。
- ・イモムシが寄生されることは知らなかった。もっとイモムシのことを知りたくなった。
- ・イモムシはあまり好きではなかったけど、1匹1匹自分の命を守っていると思うと、少しかわいく思いました。
- ・アメリカは都会というイメージがあったので、あんなに自然いっぱいのところがあるとは知らなかった。

- ・サソリや見たことのない動物や虫のいるアメリカに行ってみたくくなりました。
- ・アメリカの洗剤がすごく大きいのでびっくりしました。ワッフルの機械が日本にもあったらいいのと思いました。
- ・今日学んだことを家の人やおじいちゃんたちに教えてあげたいと思います。

これをきっかけに、身近な虫たちに目を向け、自然に興味を持つ子どもが増えてくれることを願う。

最後に・・・

今回このような貴重なプロジェクトに参加する機会を与えてくださった花王教員フェローシップ関係の方々、温かく見守ってくださったアースウォッチ・ジャパンのスタ



↑ スライドを見る子どもたち



↑ お土産の絵はがきを手に・・・

ップの皆様、プロジェクト中お世話になったリー先生はじめアースウォッチのメンバー、また快く送り出してくださった前之庄小学校の職員の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。

